

名古屋大学 農学国際教育協力研究センター ニュース

平成19年6月1日発行 第8巻 第1号(年2回発行;通巻12号)

発行/名古屋大学 農学国際教育協力研究センター

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

TEL 052-789-4225(受付) FAX 052-789-4222

<http://iccae.agr.nagoya-u.ac.jp/index.html>

e-mail:iccae@agr.nagoya-u.ac.jp

新規委託事業 アフリカ農業研究者能力構築事業 —平成18,19年度農林水産省委託—

国連ミレニアム開発目標でターゲットとしている貧困削減は、主な対象地域がサハラ以南アフリカで、農業開発や農村開発による地域住民の所得向上が特に必要です。これには、自国の農業発展や農村開発に尽くす熱意のある農業研究者を育成することが非常に重要で、そのため、日本がこれまで培ってきた



CIAT(コロンビア)で補助講師の説明を受けるアフリカ人研究者

農業技術や研究手法を直接アフリカの若い研究者に伝えていくことが役に立つと思われます。

農学国際教育協力研究センター(ICCAE)は、農林水産省から「アフリカ農業研究者能力構築事業」の委託を受け、2006年度から実施しています。実施に当たり、ICCAEは、アフリカに関係する農業研究を行っている世界の研究機関、特に開発途上国に置かれている農業研究機関とわが国との連携を強化するとともに、日本のノウハウを日本人の手でアフリカに確実に伝えることを目的としました。そのため、国際農業研究協議グループ(CGIAR)傘下の国際農業研究機関(CGセンター)やアフリカの大学や国立農業研究機関など、日本国外に所在する農業研究機関(アフリカ以外にあるものも含む)に滞在し、アフリカに関連する農業研究を行っている日本人研究者のもとにアフリカ人若手研究者を招聘します。そして、オン・ザ・ジョブ・トレーニングまたはグループ研修で2~6ヶ月程度の共同研究・研修をしながら研究成果や技術の伝達をはかるとともに研究能力を構築し、人材育成・技術移転を図ります。2006年度はCGセンター、国際農林水産業研究センター(JIRCAS)、国際協力機構(JICA)、日本の大学などから15件応募があり、全体で11名の日本人研究者が24名のアフリカ人研究者を受け入れました。

アフリカ稲センター(WARDA)では、アフリカでは稲作の経験がほとんどない技術者や研究者が多いことから、JICA専門家およびWARDAの日本人研究者によって、作物としてのイネの植物学から、



生活改良普及員と真剣に話すJOCV隊員(ブルキナファソ)